

生活科・総合の時間研究委員会

1 研究テーマ

子どもが自分なりの願いをもって追究し、人やものとのかかわりを深めていく生活科・総合的な学習の指導はどうあったらよいか

- 子どもの願いに寄り添いながら、地域の良さを生かしたカリキュラムの創造 -

2 研究課題

日野小学校は、学校教育目標「清らかで豊かな心と希望を持ち、生き生きと創造的な活動をし、命を大切にする子どもを育む 四つの心（敬う心・思いやる心・がまんする心・創造する心）四つの大切（人をだいに・ものをだいに・命を大切に・ふるさとを大切に）」を受け、全校研究テーマに「自ら課題をもって追究し、学ぶ喜びを味わえる授業」をすえ、総合的な学習の時間では、(1)自分のふるさとの良さを感じ、地域の人々に対する尊敬や感謝の気持ち・地域への愛着心を持つことができる子ども(2)お互いの良さを認め合ったり、相手の立場に立ってものを考えたりすることができる子ども(3)自分なりの願いや考えに自信を持って、あきらめずに最後までやり遂げる子どもを願う姿とした。

このような姿を育てるために、A 新しい発見やかかわりが期待できる地域素材の開発
B 学校内や地域の人たちとの出会い C 一人一人が願いを持つことができる単元構成
D 活動の良さを振り返る場の設定を研究の仮説として、研究を進めた。

3 指導の実際

[研究授業] ・ 期 日 平成 17 年 7 月 21 日 (木)
・ 学校名 日野小学校
・ 題材名 「大きくなあれ！ぼくらのワッサー」
・ 学 年 3 年松組
・ 授業者 山浦 昭男 教諭

・ 地域素材の開発

ワッサーは、日野地区で開発された果物である。自分の学校の校区内で初めて作られたということで愛着を持ちやすいと考えた。生産農家である S さんから「摘蕾・摘果・葉摘み・収穫」とそれぞれの作業のたびに指導を受けながら一人一人がワッサーにかかわった。また、指導を受ける中で、S さんのワッサーに寄せる思いにふれる機会を設けた。「日野地区が初めて」ということが、子どもたちには興味関心を強く持たせることにつながった。ワッサーの栽培とともに、あまり知られてないワッサーの紹介などの広報活動、料理をして食べる調理活動・保護者や地域の方への販売活動など活動の広がりも期待できると考えた。

・ 人との出会い

ワッサー作りを教えてくれる S さんとの出会いとともに、収穫したワッサーの使い方を考える中で、ワッサーの紹介や地域の人への販売など子どもたちは願いをもった。ワッサーを全校の友達に紹介する活動を考えたり、地域の人たちへの販売活動を行ったりした。相手を意識したわかりやすくするにはどうしたらよいかを考えながら行った。

- ・ 一人一人願いを持つことができる単元構成

ワッサーやSさんとできるだけかかわる機会を多くもつようにしたり、「自分のワッサー」という気持ちを強くもたせるために、ワッサーに自分だけのテープをつけたりした。これによりワッサーへの関心が高まっていった。また、学校と畑が離れているために、毎日様子を見ることができないので、ワッサーやSさんへの思いがとぎれないように、教室で授業を行うときにはワッサーが成長してきている様子やSさんからのお知らせなどを写真やビデオで視覚的に伝えるように考えた。

- ・ 活動のよさを振り返る場の設定

子どもたちの気づきやかかわりのよさなどを教師の方から子どもたちに紹介することを単元を通して繰り返し行うことを考えた。また、学習カードを使って子どもたちの活動への満足感を把握しようとした。

- ・ 実証授業

授業では、販売活動にむけて「のぼり作り」「帽子作り」「サンドイッチマンの看板作り」「看板作り」の四つに分かれて、「お客さんに分かりやすいものを作る」ことを意識しながら、友達と協力して準備・制作した。

4 この事例から明らかになったこと

- (1) 日野地区が初めてということが子どもたちにとって大変魅力的なことであり、愛着をもってかかわれる素材であった。また、栽培するだけでなく、地域の方やお客さんなど人とのかかわりの広がりがあること、調理をして食べる楽しみがあることなど活動の多様性があり発展性があることなどがはっきりした。子どものいろいろな活動を支えることができる地域素材を取り上げる良さが実証された。
- (2) 授業では、収穫したワッサーを販売するために、大勢の人に来てもらうにはどうしたらよいかを考え、グループごとに友達と協力しながら、看板やのぼり・帽子など販売のときに使う道具を作った。販売活動にむけての制作活動中に起きる問題を相談する場面でリーダーシップを取ったり、意見を出し合いながら決め直したりと、共通の願いに練り上げていくなど友達とかかわる力を伸ばす姿があった。
- (3) 畑が離れていて毎日全員が、ワッサーを見ることができないので、写真やビデオ等での視覚教材をを活用することは、意識をつなげていくことに有効であった。

5 来年度への課題

- (1) 子どもたちが地域の良さを感じながらかかわりを深めていくことができる地域素材の開発。
- (2) 子どもたち一人一人の授業に対する願いと教師の願いにずれがあった。より子どもたちの願いをくみ取り、それが授業にいきるように支援すること。
- (3) 1時間1時間ごとや題材ごとの活動の振り返りをする場の工夫。

6 その他

- (1) 1時間の授業の中での支援のあり方、「願いをもったり深めたりする」「友達とかかわる」「評価」などに焦点を当てていきたい。
- (2) 研究期日は題材によることが大きいので委員会に任せてもらえるとありがたい。

